

箱根組ニュース

第339号 2021年7月号

編集発行人 戸丸悟

箱根組は自然を大切にします！
各自保険に入って山に登りましょう！

奥多摩駅から奥多摩むかし道を途中まで歩き、奥多摩湖畔で野草天ぷらを楽しむ。

まだまだ収まらないコロナウイルスの中、緊急事態宣言解除前日の6月20日に奥多摩に出かけました。

JR新宿駅発、7時44分のホリデー快速おくたま3号奥多摩行きに乗車。早朝、江東区では小雨が降っていたが、車窓からは雲の間から青空がのぞいていた。快適な電車は乗り換えなしで奥多摩駅に向かう。車内は通常よりは乗客はまだ少ないと感じた。

奥多摩駅に9時17分到着。降り立ったのは、佐藤、太田、和田、奥村、川名夫人、宗像夫人、神山、及川、有倉、星野親子、神吉、戸丸の13名。

駅前左側はひと昔前より広くなっている。トイレはきれいになり使いやすしい。駅前で身支度とストレッチをする。駅舎周辺では盛んに飛び交う燕の姿がたくさん見られた。駅舎の屋根の下に巣を作っているのか、それともすでに子育てをしているのかはわからなかった。

9時40分、歩き出す。駅前を左に進み、奥多摩駅入り口の信号を右に青梅街

道を進む。左側に奥氷川神社。日原川にかかる氷川大橋を渡る。日原川は橋の先ですぐに多摩川に合流する。その多摩川とその横を走る青梅街道に沿っているのがおくたまむかし道(旧青梅街道)だ。左側に大きな家が現れる。母屋の左右に白い土蔵がある立派なお屋敷だ。

南二丁目のバス停の先、左側には割烹旅館三河屋、創業一八〇年と書いてある看板も古い。氷川郷温泉麻葉の湯とも書いてある。温泉と食事が楽しめるよう一度行ってみたいと思う。

郵便局の手前、駅から三つ目の信号を右に曲がる。左角に奥多摩むかし道の立派な案内看板がある。六ツ石、鷹ノ巣、雲取山登山口ともある。石尾根経由で雲取山まで行けるルートだが長い道のりだ。休憩なしで11時間以上はかかるだろう。下りでも7時間以上はかかる。

9時50分、左に曲がると奥多摩むかし道の入り口だ。すぐに舗装の坂道が現れる。羽黒坂だ。右の山側に73段の石段がありこれを上ると羽黒三田神社が



あるとのこと。神社まで登らずに下から仰いで進む。この羽黒坂は旧青梅街道で荷揚げの人々が苦勞した坂だとのこと。登りきると緑の多い気持ちのいい自然な山道だ。高台で下の集落方向が見える。山の斜面に付いたような道だ。早速天ぷらの材料の野草を摘み始める。

10時過ぎ、誰かがトンネルがあるとの声、右上後方を見るとトンネルが見える。上がってみることにする。小河内ダムを造るときに鉄道があったことは知っていたがトンネルを間近で見るのは初めてだ。線路もそのまま残っている。立派なトンネルもそのまま真っかりしている。せつかくなので入ってみる。歩いてみると向こう側が見えるのでトンネルを抜けて往復した。中はかなり暗くてちよつとした冒険気分だ。元に戻ってむかし道を進む。

10時30分、鉄の橋を渡る。周りは

緑、緑、緑の森だ。右上にあつた鉄道は左側になって線路が残っている。野草をとることが一番の目的なので歩くのがおそ

かになるが、しかしそのために逆に歩くことが苦にならない。みんなでこれは食べられないの、これは何などと言いつながら歩くのは楽しい。蛇イチゴの試食などもしたが、味がなくおいしくはないが食べられる。お茶の葉も噛んで渋味を楽しんだ。

10時37分、右に道が曲がり登ってゆくと広い道になる。どうやら未舗装の山道はここまでらしい。

右側に石仏が十数体並んでいる。お地藏様、観音様、一休さん？らしい像は木魚に寄りかかって居眠りしているその背中と木魚にはネズミが乗っているユーモラスなものだ。

10時43分、むかし道槐木(さいかちぎ)観光トイレに到着。きれいなトイレで横には休憩所もある。槐木の地名の由来にもなっているという立派なさいかちの木が角に立っている。高さ15メートル、幹回りは3メートルだそうだ。アカシヤのような

現在の収支
繰越 32463 円
入金 0 円
支出
News/HP 作成費 500 円
当日プリント代 390 円
現在高 31573 円

集合 7月18日(日) 京王線新宿駅

6:08 発 準特急高尾山口行き
(前から3両目)
高尾 6:56 着 (JR 乗り換え)
7:06 甲府行き 塩山 8:14 着

○交通費 新宿～塩山 片道 1533 円
タクシー 塩山～上日川峠 1500 円位
バス 大菩薩峠登山口～塩山 300 円
(バス時刻表 16:03 16:43 18:30)
(時間によってタクシー利用も有?)

●お申し込み・お問い合わせ

Tel・Fax/ 03-3521-6898 戸丸

戸丸携帯 090-4541-7066

携帯メール: satorutomaru@gmail.com

メール: tomarusatoru@hotmail.com

箱根組ホームページ

https://tomarusatoru.wixsite.com/hakonegumi

7月18日(日) 大菩薩峠～大菩薩嶺 (2056.9E)

レギュラーコース 歩行5時間

(上り2時間20分、下り2時間40分)

※電車バス内など、混雑時はマスクを使用しましょう。

塩山駅からタクシーで上日川峠まで、大菩薩峠から雷岩經由で大菩薩嶺へ。下山は雷岩經由、唐松尾根で上日川峠に戻り、大菩薩峠登山口に下ります。バスで塩山駅へ。

○持ち物 お弁当、飲料水、マスク(予備マスク)、傘、雨具、スパッツ、非常食、タオル、着替え、ヘッドランプ(予備電池)、地図、筆記用具、救急薬品、(痛み止めスプレーなど)、健康保険証、ビニール袋、ティッシュペーパー、予備靴紐、ライターかマッチ、ナイフ、ホイッスル、磁石、他

●申し込みは 7月15日(木)までに
タクシー予約の為、申し込みはお早めをお願いします。



葉っぱで実はサポニンを含んでいて洗濯に利用されたとのこと。気持ちのいい高台になっていてこれから進む道も下方向に見えるし、青梅街道も眼下に見える。ちょうど奥多摩に向かうバスが通って行った。右カーブになっていて角には祠もあって昔をしのばせる峠のように

なっている。

10時55分発、道の所々で右側の斜面から小さな沢が流れている。

11時8分、右上に鉄道のコンクリート製の橋脚が見える。全コースの3分の1ほどの地点で今日の歩行を終了し左側の集落に降りてゆく。交番のある桧村に降りる。

11時15分、桧村バス停着。11時35分の小菅の湯行きバスに乗車。

11時45分頃。奥多摩湖バス停で下車。大きな屋根付きの休憩所と藤棚の休憩所があるが、天気も良いので湖畔沿いで天ぷらパーティーをすることに決定。野草天ぷら係は宗像、神吉。そばうどん係は戸丸ということを開始。

途中で採取した野草を水洗いして、天ぷら用のバーナーとそばうどん用のバーナーの2台に天ぷら用フライパン、大鍋を載せて準備完了。

持参のビールの乾杯で始まり。急遽欠席の川名さん準備の日本酒もみんな美味しくいただく。

野草は山椒、三つ葉、ユキノシタ、アザミ、ヨモギ、茶葉などが次々に手際よく上げられ、大鍋のそばとうどんにのせて食べると格別だ。

途中で神山さんリクエストの大葉のてんぷらをうまく揚げる料理教室も大

成功。やはり講師は宗像、神吉の両名。

日差しは真夏のように日陰に避難している人もいるほどでした。

お酒もだいぶ進んですっかりいい気分湖畔の気持ちよさを堪能する。

湖畔越しの御前山をバックに記念撮

影。バスで奥多摩駅に戻る。帰りもホリデー快速東京行きで快適に岐路に着く。

(家に着いてからJRが止まったニュースが入ったがギリギリ間に合った)

7月4日(日) 戸倉三山(今熊山を含む)

武蔵五日市からアプローチの戸倉三山へ行きます。

歩行約8時間

今熊山 505m、刈寄山 687m、市道山 795.1m、
臼杵山 842.1m

申し込み締め切り 7月2日(金)

●持ち物 お弁当、非常食、飲料水(多めに)、雨具等

●集合 JR中央線 新宿駅(12番線) 6:17 発

中央特快 高尾行き(前から3両目)

立川 6:43 着(青梅線乗換) 6:57 発 武蔵五日市行き

武蔵五日市 7:34 着(バス乗り換え)(2番のりば)

7:45 発 京王八王子行き 今熊山登山口下車(7:51)

○交通費 新宿~武蔵五日市 片道 814円

